

水稻新品種「きらり宮崎」について

日高秀光¹⁾・愛甲一郎²⁾・荒砂英人・川口 満・吉岡秀樹・藺田豊和³⁾
(宮崎県総合農業試験場・¹⁾宮崎県農蚕園芸課・²⁾宮崎県国富農業改良普及センター・³⁾宮崎県小林農業改良普及センター)

Hidemitsu HIDAKA, Ichirou AIKOU, Hideto ARASUNA, Mitsuru KAWAGUCHI, Hideki YOSHIOKA
 and Toyokazu SONODA : A New Rice Cultivar "Kirari Miyazaki"

水稻品種「きらり宮崎」は、1994年から宮崎県において奨励品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し、普及の参考に供したい。本品種の育成に関し、種々ご高配いただいた関係機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴および育成経過

本品種は、1988年、宮崎県総合農業試験場において、極早生、極良食味を目標に「東北143号(後のひとめばれ)」を母、「コシヒカリ」を父として交配を行い、世代促進、個体選抜、系統選抜、生産力検定予備試験を経て、1993年F₇より「宮崎33号」の系統名を付し、奨励品種決定試験に供試してきたもので、1994年11月奨励品種採用が決まり、1995年5月26日「きらり宮崎」とし命名された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性: 「コシヒカリ」と比較すると、稈長はやや短い中稈で、穂長、穂数は同程度の中間型の草型である。止葉はやや短めで直立し、草姿は優れる。ふ先色は黄白で、稀に短芒があり、粒着密度は中で、脱粒性は難である。

2) 生態的特性: 出穂期・成熟期は「コシヒカリ」より5日程度早く、暖地では極早生に属する。耐倒伏性は「コシヒカリ」より強いやや強、穂発芽性は難、耐冷性は「コシヒカリ」と同程度の強で、収量は標肥条件では「コシヒカリ」よりやや劣るが多肥条件ではやや優る。

いもち病抵抗性遺伝子型 *PI-I* をもつと推定され、葉いもち、穂いもち圃場抵抗性はやや弱である。白葉枯病圃場抵抗性は中で、縞葉枯病には罹病性である。

3) 品質・食味特性: 稈種で、玄米の粒形は中、粒大はやや小で、外観品質は腹白、心白が少なく良質で「コシヒカリ」よりやや優れる。食味は「コシヒカリ」と同等で極良食味である。

3. 奨励品種採用理由

宮崎県の早期水稻は、超早場米としてその銘柄が確立しているものの、作付が「コシヒカリ」1品種に偏り、刈り取りや乾燥作業の集中、競合が問題になっている。また、実需者からは、より一層の早期出荷の要望が強まっている。このため、作業の分散化と有利販売の面から、「コシヒカリ」と同等の食味で熟期のより早い品種が求められていた。

「きらり宮崎」は「コシヒカリ」より出穂期・成熟期が5日程度早く、極良食味であり、栽培特性も優れていることから、上記の要件を満たす品種として早期水稻の

奨励品種に採用された。主要な普及見込地帯は県南部から中部にかけての沿岸地域で、雑品種や「コシヒカリ」の一部に替えて約1,000haの作付が見込まれる。

4. 栽培上の注意

- 1) いもち病にはやや弱なので、適期防除に留意する。
- 2) 良質米生産を図るため、適期収穫を励行する。

第1表 「きらり宮崎」の特性概要

品 種 名	きらり宮崎	コシヒカリ	
早 晩 性 草 型	極 早 生 中 間 型	早 生 中 間 型	
出穂期 (月・日)	6.22	6.27	
成熟期 (月・日)	7.21	7.26	
稈 長 (cm)	70	73	
穂 長 (cm)	16.2	16.4	
穂 数 (本/m ²)	511	516	
芒の多少・長短	稀 短	稀 短	
ふ 先 色	黄 白	黄 白	
ふ 色	黄 白	黄 白	
脱 粒 性	難	難	
穂 発 芽 性	難	難	
耐 倒 伏 性	や や 強	弱	
耐 冷 性	強	強	
耐 葉 病 性	葉いもち (抵抗性遺伝子) 穂いもち 白葉枯病 縞葉枯病	や や 弱 <i>PI-I</i> や や 弱 中 罹 病 性	弱 + 弱 中 罹 病 性
玄米重 (kg/a)	49.0	51.0	
同上標準比率 (%)	96	100	
玄米千粒重 (g)	21.9	21.5	
玄米品質	2.7	3.4	
食 味	上 中	上 中	

注) 育成地における1992~94年の標肥試験成績